ワークショップ

〈間にあるもの〉の現代史

2015年3月

10・11日

埼玉大学

東京ステーションカレッジ
東京駅日本橋口至近
サピアタワー9F（3Fより入館）

3月10日（火）　9:30-18:45

鶴見太郎（埼玉大）「ユダヤ人とロシア・ユダヤ人の間―基盤としてのロシア、媒介としてのユダヤ」
藤波伸嘉（津田塾大）「ギリシア国際法学とオスマン帝国―ヨルゴス・ストレイトを例として」
長縄宣博（北海道大）「反帝国主義の帝国としてのソ連―方法としての評伝カリム・ハキーモフ」
（討論者）TBA
斎藤祥平（北海道大）「亡命ロシア人の思想と先天的なもの／後天的なもの―N.S.トルベツコイのユーラシア主義の受容を中心に」
後藤正憲（北海道大）「モノと《場所》の領域化―ロシア・チュヴァシの在来信仰における空間の政治性」
後藤絵美（東京大）「涙とヴェール―現代イスラム運動における「信仰」の表現」
住家正芳（立命館大）：討論者
東悦子（和歌山大）「文化のはざまへ漕ぎ出す移住者たち―＜渡航案内＞にみる異文化空間への準備」
根川幸男（同志社大）「間文化的空間としてのブラジル行き移民船―ブラジル行き日本人移民船客の世界学習」
左近幸村（新潟大）「ロシア義勇艦隊の理念と現実―海から見たロシア帝国の人の移動」
橋本順光（大阪大）：討論者

3月11日（水）　9:30-17:30

奈倉京子（静岡県立大）「「僑」（qiao）の含意―帰国華僑の文化実践・組織活動・故郷認識に関する考察から」
錦田愛子（東京外大）「パレスチナ人の移動とアイデンティティ―「国なき民」の抱くナショナリズム」
岩谷彩子（広島大）「起源と帰属―起源を逸失しつづけるロマの帰属意識をめぐって」
加藤有子（名古屋外大）：討論者
松田ヒロ子（神戸学院大）「東北アジアの現在と仲介人・境界人を語ることの困難―琉球列島と台湾を中心に」
鄭百秀（桜美林大）「李光洙の「親日」イデオロギーにおける抗争」
東栄一郎（ペンシルベニア大）「開拓農業を通じた北米と満州のつながり―カリフォルニア日本人移民の逆移動と彼らの専門知識の移入過程について」
（討論者）TBA

ロシア・中東・東アジアにおける仲介人と境界人

http://park.saitama-u.ac.jp/~tsurumitaro/aida.html

趣旨

〈間にあるもの〉を把握するためには、同時に 2 つ以上のものに目を配らなければならない。複数の要素を繋ぐ仲介人や境界を跨ぐ境界人といった存在はその一例である。複数性の間に彼／彼女らは存在しており、単一のものには決して還元できない。

対して、近代人文･社会科学が思考の中心に据えてきたのは、自己完結した個、つまり独立変数として設定しやすい主体なり構造である。この思考様式において、仲介人や境界人は「従属変数」として、周縁化･例外視されてきた。もちろん、人文学寄りの学問領域では、こうした状況に対する疑問は早くから呈されてきた。「マージナル･マン（境界人）」や「ディアスポラ」、「混淆性」、「エージェンシー」といった概念は、そこから生まれたアンチテーゼである。

だが、こうしたアンチテーゼが、旧来的な世界観を覆してきたかといえば、むしろそのなかでも周縁化されてきたといわざるをえない。わかりやすい研究成果を求める圧力が高まっている現在、〈間にあるもの〉を扱う研究はさらに矮小化されつつあるかもしれない。

では、こうした事態の責任は、〈間にあるもの〉の価値に気づかない旧来の学派の側にのみあるのか。むしろ、例えば混淆性に注目する研究が、混淆する前の純粋なものの存在を前提とし、無意識のうちに混淆性／純粋性を対立的に捉え、しかも純粋性をマジョリティや体制側なるものと重ね合わせることで、結果的に混淆性を特殊視し周縁化してしまってきたということはないだろうか。混淆性が本当にマイノリティだけの問題ではないのだとしたら、マジョリティや体制側のなかでも混淆性は大きな役割を果たしてきたはずである。

ロシア帝国を例に取ってみるならば、そのなかで、混淆性の典型とされるユダヤ人を虐げていた「体制派」は、いわゆるロシア人だけではなかった。ロシアの防人として、しかしロシア人とは異なる集団として自らを位置づけてきたコサックというもう一つの混淆的存在を忘れてはならない。ロシア人自身、「西」と「東」の間にある存在として自己定義することは少なくない。

そもそも、一般に人々のアイデンティティも、脈絡なく存在するのではなく、それが意味を持つ――つまり「自分らしくある」――場が想定されて初めて成立している。こう考えると、〈間にあるもの〉は、世の中の標準形態とさえいえる。そうであるならば、改めて、〈間にあるもの〉を中心に据え、それを周縁化することなく議論していく方法を探っていくべきではないのか。

本ワークショップでは、〈間にあるもの〉を実証的に探究してきた研究者が集まり、〈間にあるもの〉をどのように見出し、位置づけていくべきかについて、広く、深く、議論していきたい。その際、ロシアや中東、東アジアといった、近代科学によって切り込まれ、自らも一面でそれに合わせようとしながら、それに対するズレを顕在化させてもきた地域を基軸とする。

※大学関係者に限らず、どなたでも無料でご参加いただけます。申し込みも不要ですが、１日目の懇親会にご参加を検討されている方は下記連絡先までご一報いただけますと助かります。

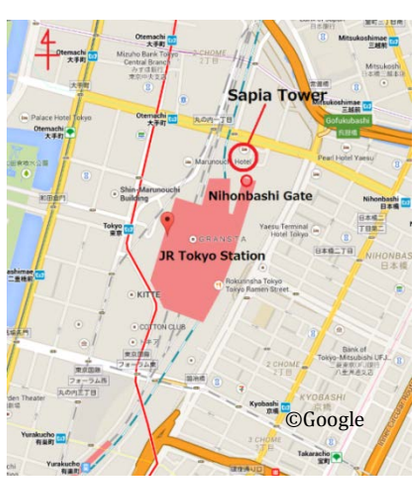
埼玉大学研究機構鶴見研究室　共催：新潟大学超域学術院左近研究室　（JST 科学技術振興機構予算）

東京ステーションカレッジ

千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー９階

東京駅日本橋口至近、八重洲北口歩３分。大手町駅・日本橋駅も徒歩圏。

ホテルメトロポリタン丸の内と同じ建物です。入口はホテル用ではなく、奥から３階のオフィス用の入口にお進みいただき、本会用の受付で１日入構パスをお受け取りください。



連絡先・ウェブサイト

埼玉大学研究機構鶴見研究室　taro_tsurumi@yahoo.co.jp

http://park.saitama-u.ac.jp/~tsurumitaro/aida.html